

－ 成績通知書の見方について －

（１）成績通知書の評価欄の記号について

S : 100～90点		履修：履修中科目	欠：定期試験欠席者
A : 89～80点	合格	認定：単位認定科目	保留：成績評価保留
B : 79～70点		K : 放棄科目	
C : 69～60点		H : 再試験該当者	
D : 59点以下	不合格		

※D・Kの場合、今後再履修し試験で合格した場合はS～Cの評価がつきます。

※追試験（欠）及び再試験（H）該当科目については、後日成績評価を行います。

（２）成績通知書の卒業要件集計欄について

要件必要単位数：卒業に必要な単位数です。

修得済単位数：今までに修得した単位です。

履修中単位数：今回履修している単位数です。

修得済振替単位数：他の区分から振り替えられた単位数です。他学科の科目を履修した場合には、「自由選択（専門）」に振り替えられます。

履修中振替単位数：今回履修している単位数の内、他の区分から振り替えられた見込みとしての単位数です。

判定用単位数：卒業判定の際に基準となる単位数です。

不足単位数：「要件必要単位数」に対して不足している単位数です。

※自由選択を「卒業所要単位数」以上修得しても必修及び選択必修の「卒業要件充足単位数」を「振替単位数」で満たすことはできません。

（３）卒業に必要な単位数について

卒業に必要な単位数は130単位です。その内訳は下表のとおりとなります。

科目区分	科目内容	単位数
総合基礎科目領域 (25単位)	共通基礎科目群 (必修)	8
	人間基礎科目群 (必修)	2
	外国語科目群 (必修)	4
	(選択必修)	1
	自由選択	10
専門科目領域 (105単位)	専門基礎科目群 (必修)	32
	専門科目群 (必修)	61
	自由選択	12
単位数 合計		130

（４）授業科目について

授業科目の「科目区分」「配当年次」「単位数」「必選区分*」につきましては、裏面資料をご参照ください。

※必選区分とは、「必修」「選択必修」「選択」の区分です。それぞれの区分の説明は次のとおりです。

必修：必ず修めなければならない授業科目を表します。

選択必修：特定の授業科目の範囲から規定された単位数分の授業科目を納めなければならない授業科目を表します。

選択：任意に選択することができる授業科目を表します。

（５）単位の算入基準について

単位の算入基準は、次のとおりです。

必修科目の単位：科目区分に応じて必修の単位に算入されます。

選択必修科目の単位：科目区分に応じて選択必修の単位に算入されます。

選択科目の単位：科目区分に応じて自由選択の単位に算入されます。

（６）GPAについて

GPA (Grade Point Average) とは、成績評価 (S・A・B・C・D) に基づいて評価した成績の科目数にそれぞれのGP (Grade Point) を掛けて合計したものを履修登録した科目数の合計で割って算出した1科目あたりの平均点を表します。

成績評価	点数	GP (Grade Point)
S	100～90点	4.0
A	89～80点	3.0
B	79～70点	2.0
C	69～60点	1.0
D	59点以下	0.0

【理学療法学科(2016年度から2019年度 入学生)】

科目区分	科目名	配当年次	単位	必修区分
総合基礎科目領域	共通基礎科目群	基礎演習Ⅰ	1	必修
		基礎演習Ⅱ	1	必修
		日本語演習	1	選択
		コンピュータリテラシー	1	選択
		健康と運動	1・2	2 選択
		生活健康学	1・2・3	2 選択
		スポーツの理論と実際	1・2・3	1 選択
		基礎数学演習	1	選択
		統計学	1・2	2 必修
		生活と物理	1・2	2 必修
		生命科学	1・2	2 選択
		心理学	1・2	2 必修
		生命倫理学	1・2・3	2 選択
		哲学	1・2・3	2 選択
		山梨の自然と文化・産業	1	2 選択
		富士山と環境	1・2・3	2 選択
	人間基礎科目群	健康とリハビリテーション	1	2 必修
		医療と福祉	3・4	2 選択
		発達心理学	1・2	2 選択
		国際福祉論	1・2	2 選択
		高齢者と生活の歴史	2・3	1 選択
		ユニバーサル環境論	2・3	1 選択
		点字の理論と実際	1・2・3	2 選択
		手話の理論と実際	1・2・3	2 選択
		ボランティア論	1・2・3	2 選択
		ボランティア活動の実際	1・2・3・4	1 選択
	外国語科目群	英語Ⅰ-1	1	1 必修
		英語Ⅰ-2	1	1 必修
		英語Ⅱ-1	2	1 必修
		英語Ⅱ-2	2	1 必修
		英語リーディング・ライティング	1・2・3	1 選択必修
		英語コミュニケーション	1・2・3	1 選択必修
		英語会話	1・2・3	1 選択必修
		基礎中国語	1・2・3	1 選択必修
		基礎韓国語	1・2・3	1 選択必修

科目区分	科目名	配当年次	単位	必修区分
専門基礎科目領域	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1	2 必修
		解剖学Ⅱ	2	2 必修
		解剖学演習	1・2・3・4	1 選択
		解剖学実習	1	1 必修
		生理学	1	2 必修
		生理学演習	1	2 必修
		生理学実習	2	1 必修
		運動学Ⅰ	1	2 必修
		運動学Ⅱ	1	2 必修
		運動学実習	2	1 必修
		運動生理学	1	2 必修
		人間発達学	1	2 必修
		病理学	1	2 必修
		薬理学	2・3	2 選択
		微生物学・免疫学	2・3	2 選択
		公衆衛生学	1・2	1 選択
		栄養学	2・3・4	2 選択
	臨床医学系	臨床医学総論	1	1 必修
		整形外科科学	2	2 必修
		内科学	2	2 必修
		神経内科学	2	2 必修
		小児科学	2	1 必修
		リハビリテーション医学	2・3	1 必修
		精神医学Ⅰ	2	2 必修
	福祉学系	精神医学Ⅱ	2・3	2 選択
		社会理論と社会システム	1・2	2 選択
		社会保障論Ⅰ	1・2	2 選択
		現代社会と福祉Ⅰ	1	2 選択
		福祉用具論	2・3	2 選択
		精神保健学Ⅰ	2・3	2 選択
		精神保健学Ⅱ	2・3	2 選択
	心理学系	高齢者福祉	2・3	2 選択
		介護福祉	2・3	2 選択
		障害者福祉	2・3	2 選択
		心理学理論と心理的支援	1・2・3・4	2 選択
		児童心理学	2・3	2 選択
		青年心理学	1・2・3	2 選択
		高齢者心理学	2・3	2 選択
		障害者心理学	2・3	2 選択
		社会心理学	2・3	2 選択
		神経心理学	2・3	2 選択
	専門科目領域	理学療法演習Ⅰ-1	1	1 必修
		理学療法演習Ⅰ-2	1	1 必修
		理学療法概論	1	2 必修
		臨床実習Ⅰ	1	1 必修
		理学療法用語論	1	2 選択
		理学療法演習Ⅱ-1	2	1 必修
		理学療法演習Ⅱ-2	2	1 必修
		理学療法診断学	2	2 必修
		理学療法評価学	2	2 必修
		理学療法評価学実習	2	1 必修
		運動療法学	2	2 必修
		運動解剖学	2	2 必修
		臨床実習Ⅱ	2	2 必修
		バイオメカニクス	2	2 選択
		バイオメカニクス演習	2	1 選択
		理学療法演習Ⅲ-1	3	1 必修
		理学療法演習Ⅲ-2	3	1 必修
		物理療法学	3	1 必修
		内部障害系理学療法学	3	2 必修
		内部障害系理学療法学実習	3	1 必修
		義肢装具学	3	2 必修
		義肢装具学実習	3	1 必修
		理学療法治療学	3	2 必修
		運動器系理学療法学	3	2 必修
		運動器系理学療法学実習	3	1 必修
		神経系理学療法学	3	2 必修
		神経系理学療法実習	3	1 必修
		日常生活活動学	3	2 必修
		日常生活活動学実習	3	1 必修
		臨床運動学	3	2 必修
		理学療法マネジメント	3	1 必修
		高齢者理学療法学	3	1 必修
		地域理学療法学	3	1 必修
		臨床実習Ⅲ	3	5 必修
		理学療法研究法	3	1 選択
		神経筋促進治療学	3	1 選択
		小児理学療法学	3	2 選択
		スポーツ医科学	3	1 選択
		スポーツ理学療法学	3	2 選択
		マニュアルセラピー	3	2 選択
		高次脳機能障害治療学	3	1 選択
		職業関連活動学	3	1 選択
		理学療法特論	4	2 必修
		理学療法演習Ⅳ	4	1 必修
		臨床実習Ⅳ	4	10 必修
		卒業研究	4	4 選択

進級について

2020年度より健康科学部のすべての学科において、各年次に進級するうえで判定制度が実施されることになりました。それぞれの学科では次のとおり進級に必要な条件（進級要件）が定められています。なお、進級要件を満たすことができなかった学生は、次の年次に進むことができず、現に在籍する年次に留まります（留年）。

（１）進級要件

理学療法学科

- ①当該年度のGPAが1.5以上であること
 - ②当該年次に配当されている専門科目領域に属する必修科目の全てに合格していること
- ※①と②の両方を満たすことが進級要件となります。

【理学療法学科専門科目領域 各年次 必修科目一覧（2016年度から2019年度入学生）】

科目区分		1年次		2年次		3年次	
専門科目領域	専門基礎科目群	解剖学Ⅰ 生理学 運動学Ⅰ 運動生理学 病理学	解剖学実習 生理学演習 運動学Ⅱ 人間発達学 臨床医学総論	解剖学Ⅱ 運動学実習 内科学 小児科学	生理学実習 整形外科 神経内科学 精神医学Ⅰ	リハビリテーション医学※	
	専門科目群	理学療法演習Ⅰ-1 理学療法概論	理学療法演習Ⅰ-2 臨床実習Ⅰ	理学療法演習Ⅱ-1 理学療法診断学 理学療法評価学実習 運動解剖学	理学療法演習Ⅱ-2 理学療法評価学 運動療法学 臨床実習Ⅱ	理学療法演習Ⅲ-1 物理療法学 内部障害系理学療法学実習 義肢装具学実習 運動器系理学療法学 神経系理学療法学 日常生活活動学 臨床運動学 高齢者理学療法学 臨床実習Ⅲ	理学療法演習Ⅲ-2 内部障害系理学療法学 義肢装具学 理学療法治療学 運動器系理学療法学実習 神経系理学療法学実習 日常生活活動学実習 理学療法マネジメント 地域理学療法学

※リハビリテーション医学の配当年次は2・3年次ですが、進級要件では3年次の必修科目として取り扱います。（通常は2年次で履修します。）

（２）進級判定対象年次・判定時期

進級の可否は、学生の所属に応じてそれぞれの進級要件に基づき学科と教務委員会の審査を経て、その審査結果に基づき健康科学部教授会において判定します。判定を行う年次及び時期は、次のとおりです。

年 次 ： 1年次・2年次・3年次（4年次は卒業の判定となります。）
時 期 ： 毎年度末

（３）進級の認定

進級の認定は、進級判定の結果に基づき健康科学部学部長が行います。

（４）留年した学生の履修

進級判定により進級が否と判定された学生は、現に在籍する年次に留まります。また、専門科目領域に属する必修科目のうちC評価として合格した授業科目およびD評価として不合格となった授業科目は、その効力を有しません（成績が取り消されます）。当該学生は、翌年度、留まった年次で前年度にC評価およびD評価となった専門科目領域に属する必修科目を改めて履修しなければなりません。そのほかに履修できる授業科目は、留まった年次に配当される未だ修得（合格）していない授業科目に限られます。在籍する年次よりも上位の年次に配当されている授業科目は、履修することができません。（例：1年次に専門科目領域の必修科目に不合格があり進級することができなかった場合は、2年次以上に配当される授業科目を履修することができません。）